

9 次世代への被爆体験継承の新たな取組について

(厚生労働省関係)

要望内容

- 1 平和記念資料館等におけるこどもたちを対象とした展示の充実に対する財政支援
- 2 A I ・ V R を活用した被爆体験継承の取組に対する財政支援
- 3 平和記念式典参加自治体への派遣旅費の補助制度に対する財政支援

(要 旨)

1 平和記念資料館等におけるこどもたちを対象とした展示の充実に対する財政支援

被爆から80年目を迎え、被爆者の更なる高齢化が進む中、被爆体験の次世代への継承を確実に行うため、全国のこどもたちが被爆の惨禍と被爆体験を実感できる被爆地での平和学習の取組の重要性が高まっています。

このため、本市としては、国からの補助を受け、「ヒロシマ平和学習受入プログラム」による受入れを大幅に拡充するとともに、広島への修学旅行と平和学習の実施を促進するための取組を進めています。

こうした中、こどもたちがより被爆の実相の理解を深め、平和学習の効果を一層高められるよう、平和記念資料館並びに同館に近接する本川小学校平和資料館及び袋町小学校平和資料館に、こどもたちにも分かりやすいテーマや内容の展示を整備し、3館を回遊することで、被爆の惨禍と被爆体験を様々な視点から学び、自分ごととして認識してもらえるような環境整備を図っていきたいと考えています。

つきましては、こうしたこどもたちを対象とした展示の充実の中でも、とりわけ、令和8年度におきましては、平和記念資料館における展示整備に対する財政支援について、格別の御配慮をお願いいたします。

2 AI・VRを活用した被爆体験継承の取組に対する財政支援

今後、確実に到来する「被爆者がいなくなる時代」を見据え、AIなどのデジタル技術を活用して、被爆者本人に代わる新たな被爆体験継承の手法を確立し、被爆者の言葉や平和への思いを的確かつ確実に次世代へと伝えることが、人類史上最初の被爆の惨禍を経験した本市の責務であり、また、喫緊の課題であると認識しています。

本市では、これまで、国及び本市が収集・保管してきた、被爆体験記を始め、被爆者証言ビデオや市民が描いた原爆の絵、原爆被害等を撮影した写真といった膨大な資料を有効に活用するため、こうした情報を集約し、データベースを構築するとともに、入出力にAIを活用し、膨大な被爆者の体験や平和への思いが広く次世代に理解されるようなシステムの構築に取り組んでいるところです。

また、原爆投下時の悲惨さや復興した現在の広島の状態を疑似体験できるVR映像を内蔵したVRゴーグルを、海外及び国内の原爆・平和展や若者への被爆の実相に係る研修等において活用し、広島を訪れるきっかけとさせていただくとともに、平和についてより深く考える機会を提供しています。

つきましては、こうしたAI・VRを活用した新たな被爆体験継承の取組に対する財政支援について、令和7年度は、被爆80周年を機に措置していただいたところですが、令和8年度におきましても引き続き格別の御配慮をお願いいたします。

3 平和記念式典参加自治体への派遣旅費の補助制度に対する財政支援

被爆地である本市は、平和記念資料館の見学や被爆体験講話の聴講等の相乗効果により、被爆の惨禍と被爆体験を実感できる場所であり、次世代への継承を確実に行うためにも、被爆地での平和学習は必須と考えています。

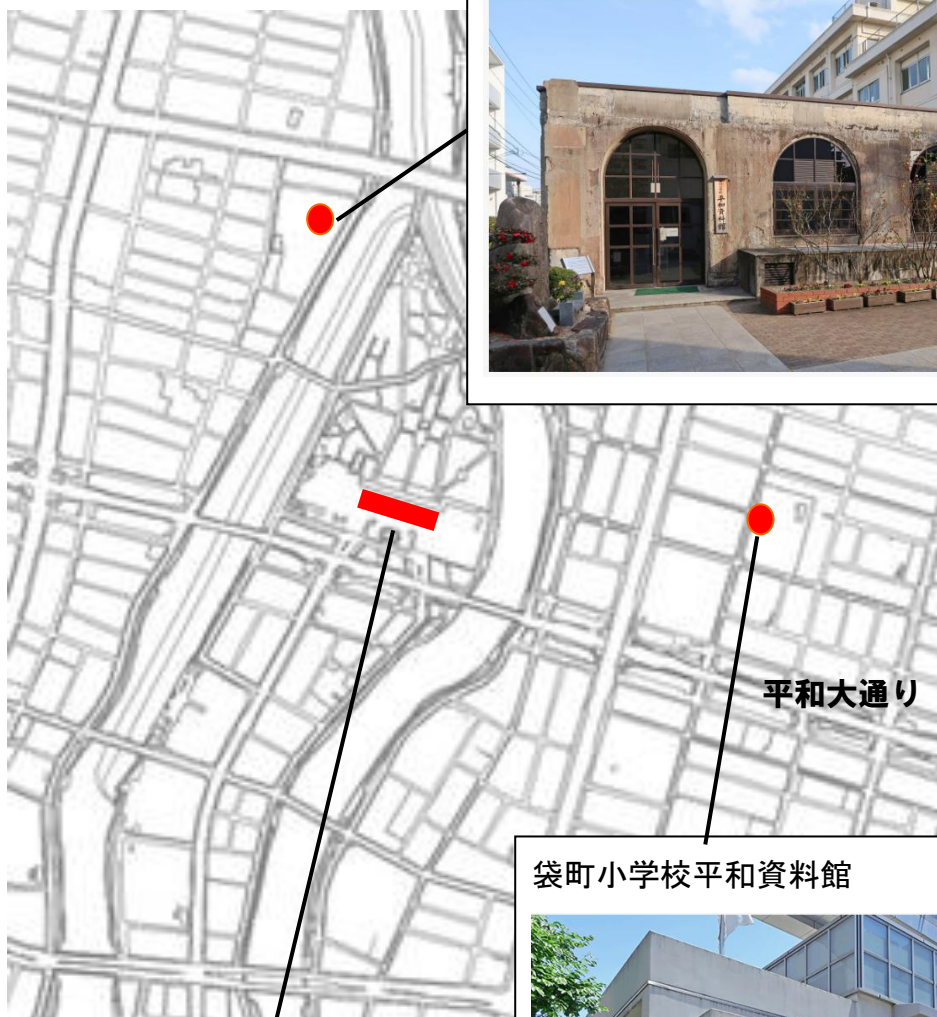
また、全国の自治体においては、戦争体験の継承と平和意識の醸成が課題として捉えられています。

こうしたことから、本市は、全国の自治体による、若い世代の8月6日の平和記念式典参加への派遣を促進するため、今年度から、国の補助を受けて補助制度を創設し、全国からの派遣を広く働き掛けているところです。あわせて、被爆地での平和学習効果を更に高めるために、式典参列に加え、様々な平和学習を行っていただけるよう環境整備を図っているところです。

つきましては、国におかれましても、唯一の戦争被爆国として、原爆の惨禍の国民の理解と被爆体験の次世代への継承を進める観点から、本市の補助制度に対する財政支援について、令和7年度は、被爆80周年を機に措置していただいたところですが、令和8年度におきましても引き続き格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

本川小学校平和資料館



平和大通り

袋町小学校平和資料館



広島平和記念資料館

